



現場から（最近のニュースから）

目的と手段



新学期が始まり、子どもたちが学校に通う姿を見るようになりました。夏休みが終わるころには、子どもたちの宿題についての記事がたくさん出ていましたが、毎日一行の日記をつける夏休みの宿題で最後の日にしたことが「夏休みの日記をすべて書いた」と暴露している子の記事には、笑わされると同時に、自分の子ども時代に、宿題を最後に必死に仕上げたことを思い出す人も多かったようです。

そのように必死になって仕上げる子どもも、それを助ける親も大変な思いをするのですが、実は学校側の教師もつらいそうです。そのような中、教頭先生の一言で「宿題の目的」を改めて考えるようになったと言われている記事がありました。

小学校の先生をしているエイさんが、X（旧 Twitter）上に投稿して話題になったという記事です。エイさんの投稿は「教頭先生が会議で『みなさんにお願ひがあります。夏休みの宿題を持って来なかった子を責めないであげてください。私も昔やっちゃったけど、いろんな家庭があるし、2学期のスタートも崩れるし、何よりも先生もしんどくなります。初日は“よく来たね”って迎えましょう』と。この言葉に子どもも先生も救われた」ということです。

この教頭先生の発言後に、学校がどのように変化したかをエイさんにインタビューしてありました。提出物を最後までやらせることにこだわっていた時期は、結果的に子どもも教員もしんどかったということです。ただ、未提出を許すことは「真面目にやってきた子が納得しないのでは」という疑問の声もあったそうです。そこで、「宿題の目的とは」ということを考えるために、先生たちの意識調査のアンケートをしたそうです。そうしたら、多くの先生が夏休みの宿題の目的は「学習習慣の維持」だと言われたそうです。その目的から考えると、「やってこなかった」という結果は、習慣化できなかったという事実であり、それをやらせるために休み時間や家で無理やりさせても、負担が増えるだけで、目的の「学習習慣」は作れないことに気づいたそうです。つまり、教員も子どももしんどくなる理由は、「目的と対策のずれ」があったからだと気づき、「やらせるのではなく、やりたい子に育てること」を大切にしよう意識を変えたそうです。そして、これから夏休みの宿題をどうしていくか、方法を検討していると、エス先生は言われていました。（9月9日 TRILL ニュース＜夏休みの宿題を持ってこなかった子を責めないで＞職員会議で教頭が伝えた言葉がネット上で話題に＞より）

目的と手段（対策）を取り違えていても気づかないことが多いのです。生きるために働いてお金を稼いでいるつもりが、お金を稼ぐために必死になって、「生きる」ことがつらく苦しくなっていることも多いのではないのでしょうか。なんのために生きるのかと問われたら、また、それも分からないことが多いでしょう。まず、自分がどんな存在であり、なんのために、いまを生きているのか客観的に見てみませんか。そうしたら、その目的のために、他のことは手段にすぎないことが分かってくるでしょう。なんのために私が存在しているのか。そのことを客観的に見るために必要なことをお知らせしたいのです。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になるし、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってください。感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください